

# 我流 平とび製本（無線綴じ製本）製本の仕方

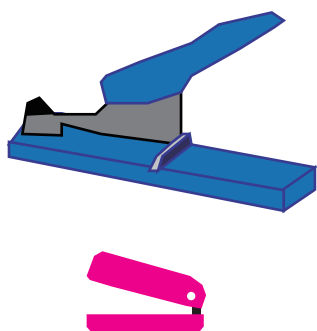
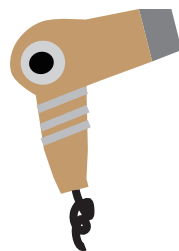
本来、平とび製本（無線綴じ製本）とは、無線綴じ製本機で、表紙をくるむ前に、用紙の背をミーリング（糊を定着させるためモーター刃で背部分を削り毛羽立たせる）をしてからホットメルトの接着剤で表紙をくるんだ製本です。我流の平とび製本（無線綴じ製本）ではボンドで背を固めてからミーリングが出来ない部分、ホチキスで止めてから表紙をくるみます。更にはその左とびクロス巻き製本の形も紹介します。我流の平とび製本（無線綴じ製本）の製本の仕方、製本のやり方、注意する事などまとめて見たんよ。

## 1. 製本のまえに用意したいもの

凶面表紙屋で表紙を用意しましょwww  
何気に2度目のPRだわ。

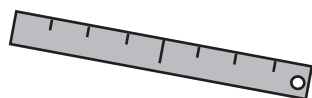
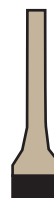
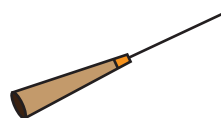
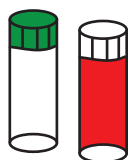
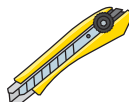
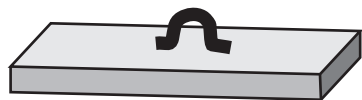


速乾でボンドや糊を乾かす時にヘアードライヤーは便利です。イオン系は必要ありませんから旧来型の第一に強力な熱量そして台風並みの風力があれば申し分ありません。



100枚程度とびられる最低限の中型のホチキスは用意したいわね。なお、紙の厚みに対してどの針が適当なのが見極めないとよく針詰まりを起こすわ注意が必要ね。勿論、殆んどがとび位置を移動できるタイプだと思うけど欲を言えばトントンしてホチキスのとび位置に用紙をセットした時に両端がだらりと崩れた状態でのホチキス止めをメーカーさんには何とがして欲しいわ。ホンマにw

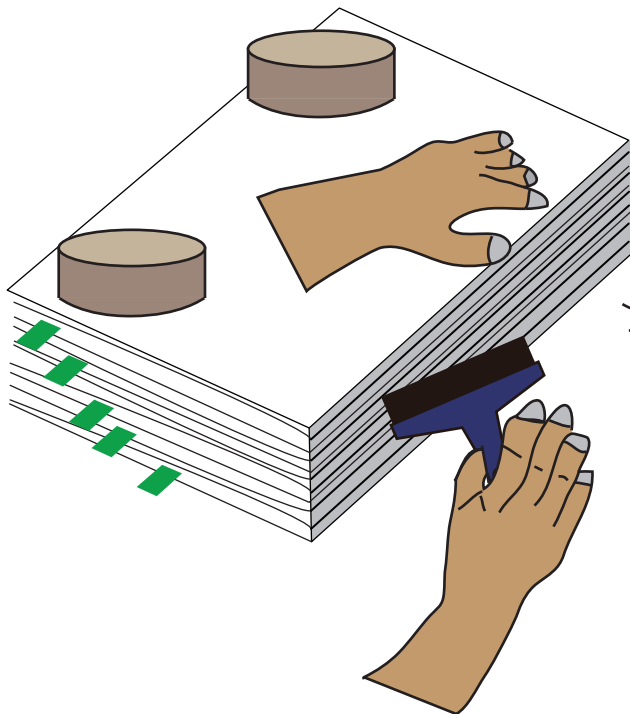
ポッコリと出たホチキスの針をハンマーで平らにしましょ。日頃の憂さを晴らして見た目スッキリ。出る杭は打たれるってさw。



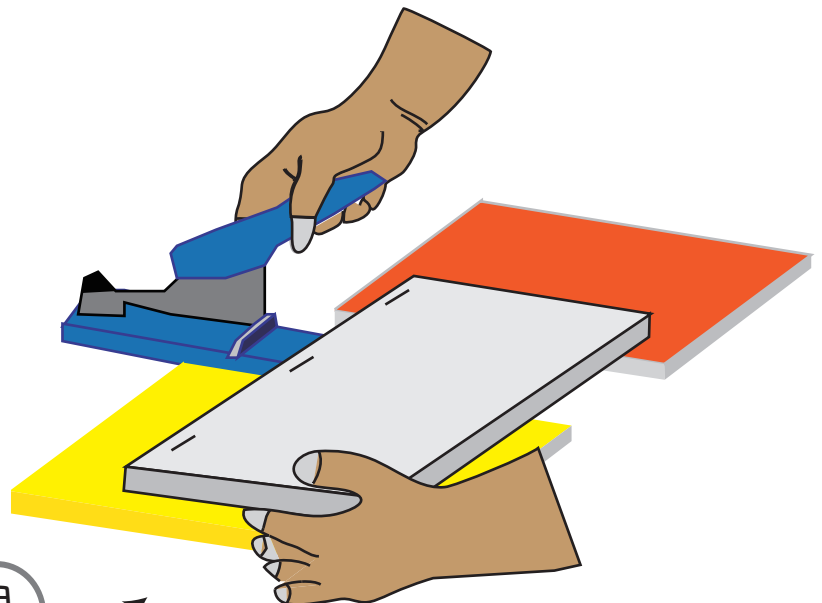
## 2. ボンドで仮止めしてからホチキス止

冊子をトントンして整え、付箋をして一気に必要な部数を原液ボンドで塗り固め仕上げます。固まった処で、中型のホチキスで要所要所を綴じますが、綴じしろは最小限の巾でホチキス針を下ろした方が開いた時に無線とび製本らしく見えますわw

部数が多い時には付箋を貼って一気にボンドで塗り固めましようね。その時、冊子ごとに剥がすには角が滑らかなプラスチック定規でやるといいですわ。なお、速乾で乾かすにはヘアードライヤーがお薦めですよ。



中型のホチキスで3ヶ所に、とび位置は、のり代に近い最少の位置にホチキスを打ちましよう。この中型ホチキスで綴じる時に冊子の両端がだらりと崩れた状態でのホチキス止め、メーカーさんには何とかして欲しいわ！段差があるから、どうしても形が崩れるわ。なお、とびた後のホチキスは頭が飛び出ているのでトンカチで平らにしておきましよう。表紙でくるんだ時にひっかるわ。

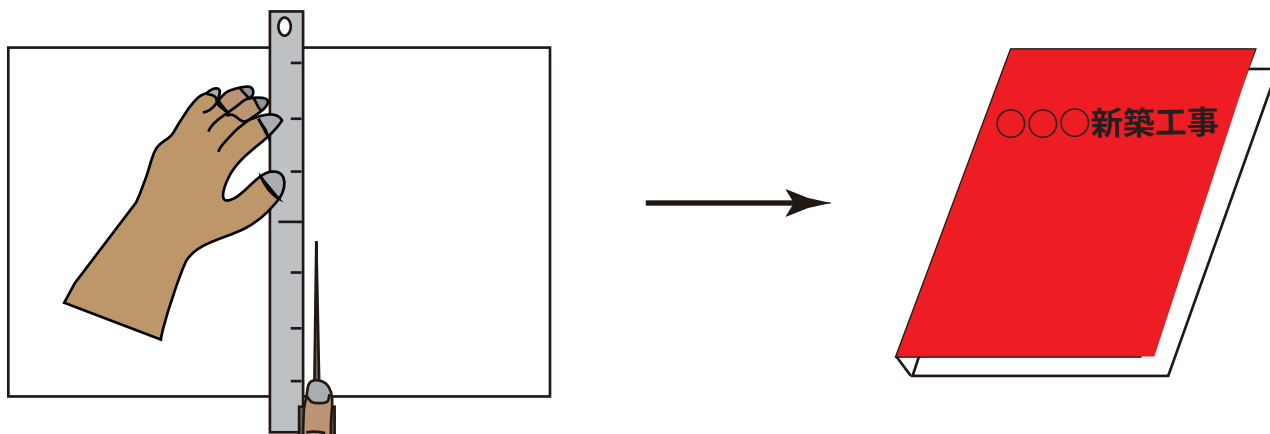


ホチキスの段差を本で調整して平行にしてからの方が綺麗にいくわ！

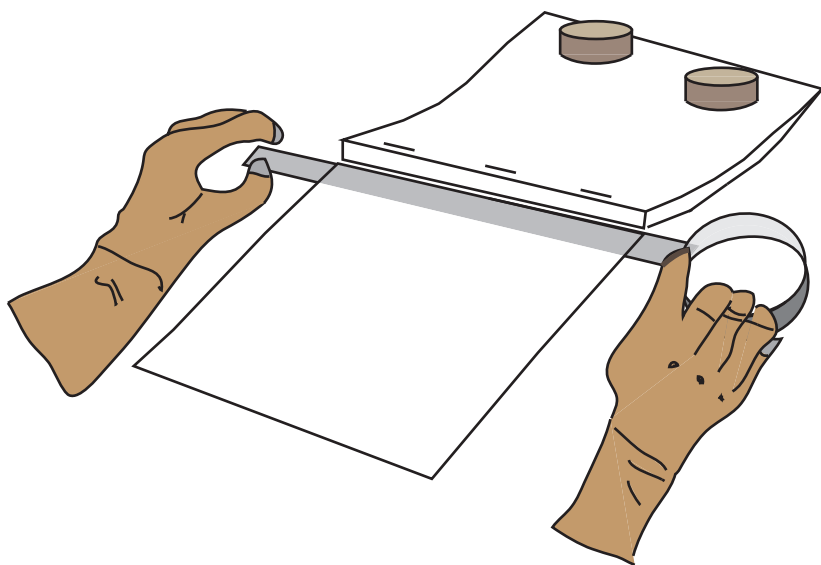


### 3. 表紙のつけ方 くるみ製本の場合

くるみ製本での表紙のつけ方は図面の厚みを計ってから表紙の裏に千枚通して背巾のスジを入れたうえで図面と合体させよう。背表紙は手でも加工できますがスジを入れておいた方が仕上がりが綺麗にいくわね。



くるみ製本（表紙で図面全体を包む一体の形）では、始めに糊つけた図面の背巾を測り表紙の裏に千枚通して背巾分を入れましょね。力を入れ過ぎ無い様に注意して、入れ過ぎると即穴が開くわ。図面 50 枚（半分に折って 100 枚）程度を糊づけすると凡そ 1cm 位の背巾になるんよ。



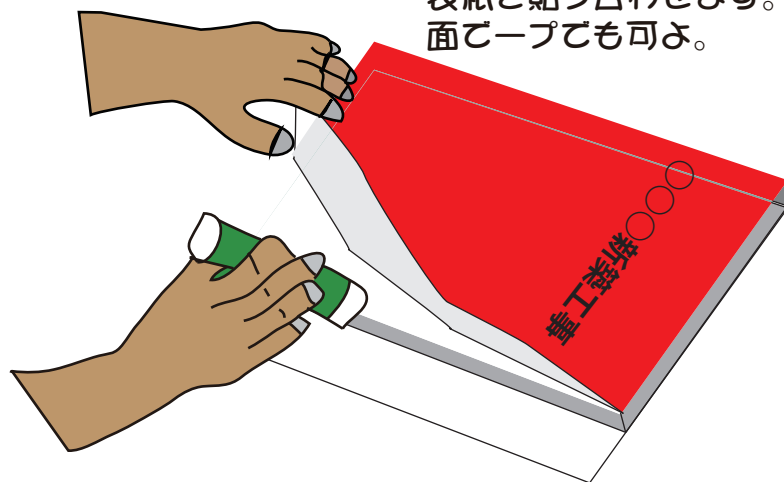
何回か表紙と図面の位置を決めてから両面テープで貼り合わせましょ。スタックのりや原液ボンドでもいいけど強度や仕上がりの綺麗さで、わだすは両面テープを使ってますわ。

普通の両面テープで

最後に見開き部分の図面と表紙を貼り合わせます。両面テープでも可よ。

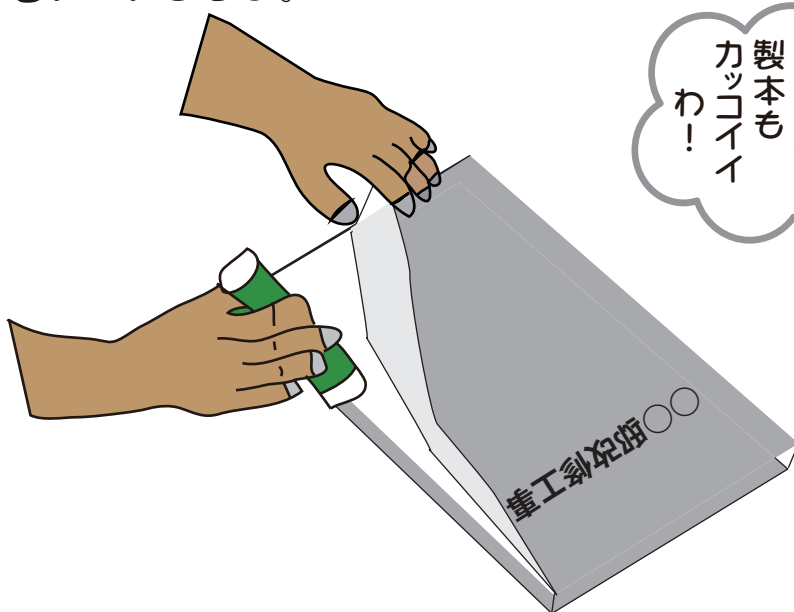


平とじ  
製本の定番  
ヤッパ  
くるみだわー！

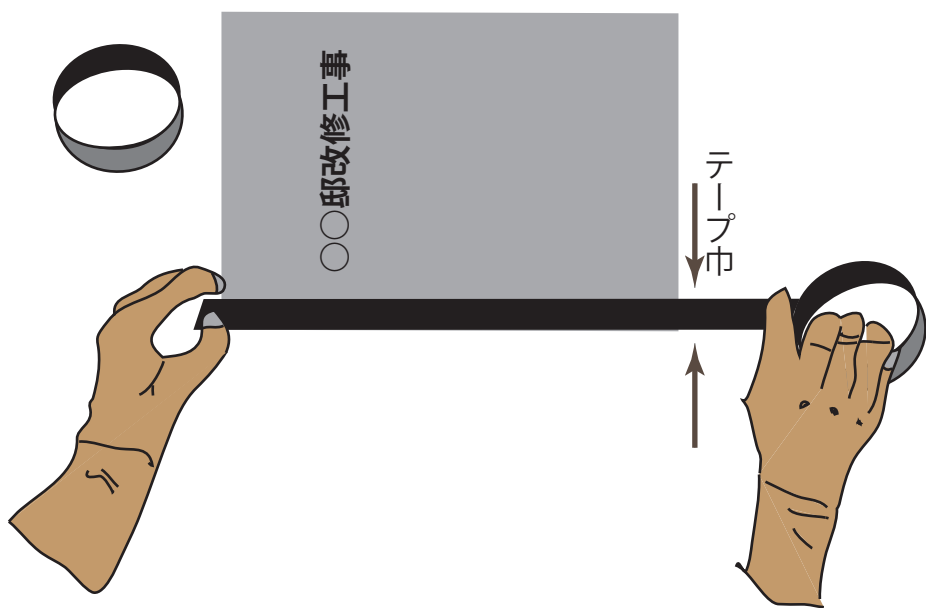


### 3. 表紙のつけ方 テープ巻製本（クロス巻き製本）の場合

テープ巻製本（クロス巻き製本）でも表紙と図面の合体は、くるみ製本同様ステックのりや原液ボンドでもいいけど強度や仕上がりの綺麗さで、わたす的には両面テープを使っていますわ。その後、製本用クロステープを巻いていきますよ。

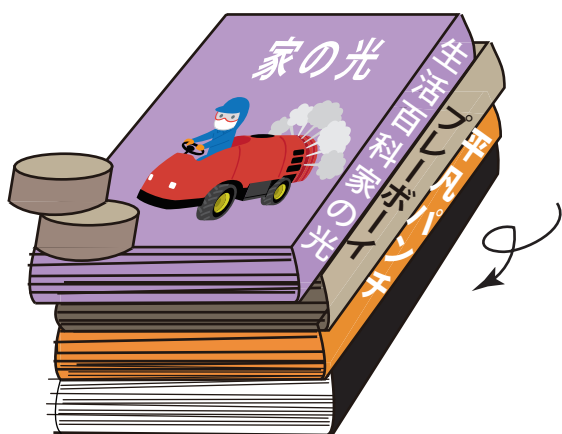


テープ巻き製本もカッコイいわ!



市販の製本クロステープは色、大きさ色々ありますが紙のテープは避けた方がいいかもしれませんわ。扱っていると剥げてしまいます。なお、背のテープの巾は A4 判表紙に 2.0cm 位、背のテープの巾は A3 判表紙に 2.5cm 位、背のテープの巾は A2 判表紙に 3.0cm 位に張ると見栄えが綺麗に見えますよ。なので表紙と裏表紙に背厚をプラスした製本テープ巾を求めるといいです。

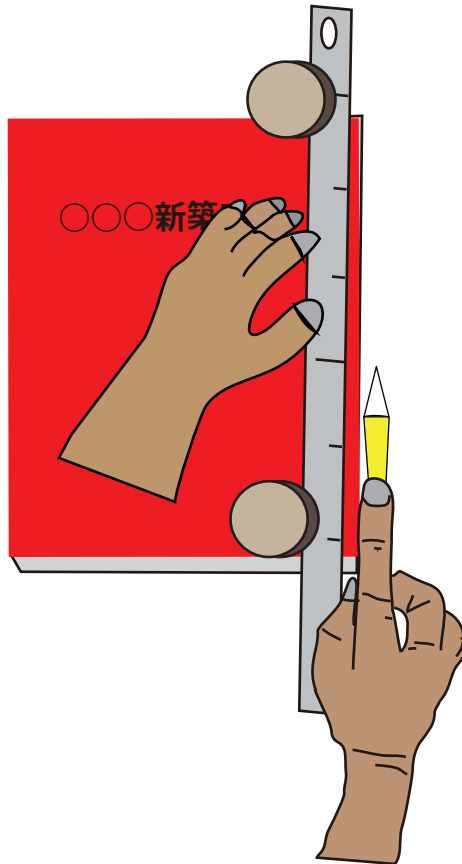
その後はしっかり重しを!!



表紙が塗り終わりましたら今一度、全体に重しをしましょう。乾くまでほったらかしにしましょうが濡れた状態だと上手く断裁できませんからね。

## 4. 化粧断ち

いよいよ最終形に近づきましたわ。糊づけした表紙の三方をステンレスの定規をあてて1mm、2mmカッターで化粧断ちします。はみ出した冊子の糊を取り除き綺麗にする事で見開きがスムーズになりますわ。なお、飛び出した表紙、裏表紙だけを冊子の大きさに合わせて切ってしまうだけで終わらせるのも有りかな。変に定規をあてて断裁が旨くない方がいいよね。w



ステンレスの定規を動かない様に抑えカッターで断裁しましょう。カッターは力を入れず軽く何度も何度も刃を入れると上手く行きますわ。逆に力を入れ過ぎると曲がったり横に滑る元と成るんよね。勿論カッターの刃は、その都度新しくね。



## 5. 我流 平とじ製本（無線綴じ製本）完成

平とじ製本（無線綴じ製本）は、無線綴じ製本機が必要ですね。  
なので、我流 平とじ製本（無線綴じ製本）ではボンドで背を固めてからミールリングが出来ない部分、ホチキスで止めて表紙でくるみました。そのため冊子をオープンに観音開きに開いた場合には奥の綴じ代部分の文字が見えにく処が出て来ますが、それは作成時に綴じ代を充分にとることで解決できると思いますわ。無線綴じ製本機を使わずボンドだけで背を固めた平とじ製本（無線綴じ製本）では用紙が抜け落ちる心配があるからね。全体をホチキスで留めてからの方が安心してきるわ。

ご清聴ありがとうございます。。。

